

別記様式第1号（第5条関係）

木津川市環の拠点創出事業活性化検討会 開催結果の要旨

会議名	第2回 木津川市環の拠点創出事業活性化検討会		
日時	平成27年6月16日(火) 午前10時～11時20分	場所	山城支所別館 「ホール」
委員	<p>■川邊 隆司（会長）、 □梅本 好成（副会長） ■宮木 保雄（副会長） ■今井 輝彦、 ■坂本 利正、 □辻 忠、 ■内田 宝三 ■杉野 耕造、 ■出栗 伸幸、 ■吉村 由美子 ※□：欠席者</p>		
出席者	<p>【オブザーバー】 立命館大学 名誉教授 山崎 正史 京都やましろ農業協同組合山城支店 支店長 花田 啓 京都府山城広域振興局企画振興室 室長 湯瀬 敏之 京都府総務部自治振興課 参事 藤岡 栄 <p>【市関係部署】 山城支所 支所長 松井 功 建設部農政課 課長 植山 一男</p> </p>		
事務局	前川課長、辻主幹、西村係長、西馬主事		
議題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 開会 2. 議事 <p>協議事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後の進め方について（資料1、別紙） <ol style="list-style-type: none"> 3. その他 4. 閉会 		
審議結果要旨	<ol style="list-style-type: none"> 1. 開会 事務局より、開会を宣言した。 2. 議事 協議事項 ・今後の進め方について（資料1、別紙） 事務局から、資料1・別紙を基に説明し意見交換および質疑応答を行った。 3. その他 事務局から、別紙により本事業の主体となり得る人を紹介してもらうよう委員に依頼した。 また今後募った人を含め、ワークショップを開催することとした。 4. 閉会 		

審議経過要旨	<p>1. 開会 審議結果要旨のとおり。</p> <p>2. 議事 協議事項 ・今後の進め方について（資料1、別紙） 審議結果要旨のとおり。 主な意見・質疑等は次のとおり。 (○…質疑・意見、→…質疑に対する返答) ○地域の価値を再認識し、多くの人が訪れるアイデアを実現する手段として「お茶の京都」の取組もある。上駄を交流の一大拠点とする中で、儲けのある継続的な取組としたい。他の市町では観光客が増える一方で、増えすぎて困るという声もある。地元の方々が受け入れやすい仕組みをつくる中で、今のうちから調整していく必要があり、計画実現に向け、地元に適した実施方法をワークショップで模索したい。 ○拠点としてきたJA倉庫は耐震改修に相当な費用がかかるとされたが、倉庫は全く使えないのか。現時点で何ができる、何ができないのか。 →不特定多数の方が常時倉庫内に入ることは厳しいが、例えばリヤカーなどの物品を保管したり、軒下で販売したりするなどして倉庫を利用することは可能である。実際に倉庫で「これをやりたい」という方の思いを聞きながらできることを協働していきたい。 ○まず何がやりたいかアイデアを出し、来てもらう仕組みづくりと情報発信、魅力発信をしていくことが大切。そのために誰がどうやっていけるか確認し合う必要がある。 ○耐震改修をしなくともお店はできるのか。 →クリアすべき課題はある。耐震改修をしてなくても法的には問題ないが、常時人が入る施設となると、建物が倒壊した際に市として倫理的な責任が生じる。 ○耐震改修に4,000万円もかかるのか。複数社に見積もりを依頼したり、コンペなどを行えば経費を抑える手段もあるのではないか。 ○木津川市の都市計画との整合性があるが、歴史まちづくり法により国の認定を受け、拠点整備に係る補助を得る方法も考えられる。 ○JA倉庫は構造的に珍しく、登録文化財としての可能性もあるのではないか。国土交通省が観光振興のために歴史まちづくり法に係る予算を用意して</p>
--------	---

おり、登録文化財であれば優先的に予算をつけてくれる動きがある。一度研究してはどうか。

○宇治田原町では湯屋谷会館から永谷宗円生家までの道を整備し、会館を道の駅化する案まである。拠点がないと人が集まらないのではないか。この事業は最初にJA倉庫を拠点とするとしたところから始まっており、使えないのあれば、別の場所を検討する必要がある。

○JA倉庫のような大規模な施設はあまり市内に残っていない。このままでは老朽化していくだけであり、価値ある施設として残していくのであれば、市民のためにも無駄なことではない。拠点にして初めてイメージが湧くものであり、もし茶問屋や製茶工場跡などで利用できるものがあればそれでもよい。また商工会の支所機能をJA倉庫の一部にしてしまうのも一つではないか。

○当初、茶問屋街に歴史的景観として価値があるため、来ていただいた人がゆっくり見て回ってもらえるよう拠点を整備することが目的だった。拠点整備だけに議論を集中させず、茶問屋に人が来るための方策や、茶問屋が困らないように季節によって見る場所の限定や、ガイドを同行させるなど規制を設ける仕組みも必要。その上で、例えば食事する場所や、女性向けのおしゃれな店など、拠点に必要な機能を付加し、魅力向上を図っていくことが、ひいては最初に求めた茶問屋街の保全整備につながっていく。

○これまで拠点で何ができるのか話し合ってきたが、その中でお金をかけないでできることは何か。

→計画の中での事業については、事務局で整理したい。

○もし国の補助金等を活用して拠点を整備するとなつた場合でも、結局誰がどのようなことをしたいかという議論になる。今のうちに事業の主体となる人を確認し、拠点に何を求めるのか整理しなければならない。また、拠点を整備し、地域の交流拠点となっていくには、民間主体で活動していく必要がある。地域の方や様々な団体がどういった立場で何ができるのか検討しなければならない。

○本事業を個人が数人で集まって行うのは難しく、例えば商工会や茶業組合が運営主体になって、複数団体で事業を行う必要があるのではないか。その場合、市はどの程度予算をつけられるのか。

→地域の方々がこうしたいという意見がたくさん出れば、市として動いていくこととなる。耐震改修費4,000万円が適正かどうかはその際に検討することになる。

	<p>6. その他</p> <p>審議結果要旨のとおり。</p> <p>主な意見・質疑等は次のとおり。</p> <p>(○…質疑・意見、→…質疑に対する返答)</p> <p>○別紙プレイヤー紹介シートの提出期限はいつか。</p> <p>→今月いっぱいを目途に提出願いたい。調整中のところは個別に対応する。</p> <p>○紹介する人は市内の方でなくともよいか。また、拠点の運営主体となる前提ではなく、単にワークショップに参加して意見する程度ということか。</p> <p>→そのとおり。市内の方でなくともよく、主体になり得そうで様々な意見を持つ方に参加いただきたい。</p> <p>7. 閉会</p>
その他特記事項	